



女性議員が5割を占める大磯町議会（同町議会事務局提供）

変える議会、
変わる議会

—改革はどこまで進んだか

女性進出の象徴として傑出
2003年以降、「5割以上」を維持

神奈川県大磯町議会（上）



ひとし ただし
人羅格
毎日新聞論説委員

神奈川県大磯町



議会 DATA

- ※令和3年4月1日現在
1. 議員定数：14人
 2. 女性議員率：50%
 3. 平均年齢：65.4歳
 4. 議会基本条例の有無：有

■全国平均14%を大きく超す

女性議員の比率をどう高めていくかは今後の地方議会にとって、避けて通れぬ課題だ。女性議員不足は、もはや宿痾とすら言える。

こう言うと、内心「実際に増やすのは難しいよ」と思っているベテラン男性議員諸氏の顔が思い浮かぶ。だが、男女比のバランスが取れている「当たり前」の地方議会が日本にも存在する。神奈川県大磯町議会である。

大磯町議会は2003（平成15）年以降、女性議員比率が5割以上を維持し、全国でも異彩を放ち続けている。現在も、定数14のうち半数の7人が女性だ。3月18日、定例会の最終日を迎えた大

磯町議会を傍聴した。副町長選任などが案件で、副議長の鈴木京子町議らが質問に立ち、副町長候補の自治基本条例に対する姿勢などを巡り、町長が答弁した。大磯町は人口約3万1000人。大磯ロングビーチで知られ、「湘南発祥の地」を自任する。明治期から海水浴場や政財界人の別荘地として栄え、東京にも東海道線を使えば1時間で通勤できる。都市型の要素も兼ね備えた土地柄だ。

そもそも大磯町議会にはなぜ、女性議員が多いのか。事情に詳しい、渡辺順子町議（75）に経緯を取材した。5期目で議長、副議長の経験を持つ。

渡辺議員によると、「女性議員を意図的に増やそうとしてきたわけではありません」。すでに、昭和期から女性議員の

同数状態が続いている。

全国平均と比べると「違い」は歴然だ。公益財団法人「市川房枝記念会女性と政治センター」の調査によると、2019年統一地方選後に全国地方議会に女

性が占める割合は過去最高だったが、それでも14%にとどまる。議会別に見ると、市区議会の16%に対し、町村議会は11%。町村は「女性1割議会」が平均である。

しかも、大磯町議会はすでに女性議長5人、女性副議長8人が誕生している。市議会ですらいまだに女性議長が多くない現状に照らしても、目を見張る実績と評価している。

■選挙に強い女性候補

渡辺議員が、女性議員進出の背景として指摘するのは、女性候補が「選挙に強いこと」だ。

女性候補の当選率は1985年選挙から4回連続で100%だった。その後も78%以上の高率を維持している。前回2019年選挙は定数14人に20人が立候補した。女性候補は8人で候補の4割だったが、7人が当選したため当選率は約9割だった。

渡辺議員によると、女性候補には市民活動を経由して手を上げたケースが多く、ネットワークがしっかりしている傾向がある。ひとつの契機として挙げるのが、民間企業研究所の建設構想を巡り、1990年代に市民に広がった反対運動

だ。反対派町長や町議が生まれ、渡辺町議もその運動を通じて議員となった。

神奈川県自体、町村議会に女性議員が比較的多い。県町村議会議長会の集計によると、大磯町以外にも葉山町、二宮町、山北町で女性議員が5人以上いる。県内町村議会の定数189人のうち、女性議員は46人とおよそ4人に1人。全国平均の「1割」を大きく上回る。

地方議会での女性候補の当選率の高さは大都市圏ではすでに定着しつつある。前回統一選を例に取ると、東京都内の市区議選（無投票除く）で女性候補の当選率は86%に達し、男性の73%を大きく上回った。

ひとたび環境を整えて出馬すれば、地方議会の女性候補は有権者に浸透しやすい素地があるようだ。東京圏の神奈川の場合、こうした傾向も反映されやすいのではないかと。おそらくこうした傾向は徐々に地方全体に拡大していくだろう。もちろん、女性議員の多さは大磯町議会の活動そのものにもプラスの作用をもたらしてきた。次回はその活動ぶりと議会風土を中心に解説したい。